

男女共同参画の視点からの防災

事例集

【取組の概要】

- ・高知県安芸市の自主防災組織である川向防災会では、子育てや介護などで忙しい女性も含めて、住民が活動に無理なく参加できる仕組みづくりを実施。

【取組のポイント】

役員に女性枠を設置

- ・会長1名 副会長(男女各1名) : 会長の任期は最長2年
- ・班長1名 副班長(男女各1名) : 班長、副班長は原則として名簿順。
という体制にし、名簿順にすることで、男女問わず誰でも役員になるような仕組みに。
また、役員の数自体を増やすことにより、女性が役員になりやすい仕組みを構築。
- ・名簿は、もともと世帯主(男性)を記載していたが、徐々に個人単位での記載に変更。
⇒これらは規約に明記し、組織全体の明確なルールに。

短時間でだれでも参加しやすい会議

- ・子育てや介護などで忙しい女性も含めて、無理なく参加できるよう、会議の時間は短時間に限定し、参加しやすい時間帯に開催。

性別での役割分担をしない

- ・災害時はどんなメンバーで活動するかわからないため、防災訓練の際、原則として役割を男女で分けず(炊き出し班=女性など)、事務局がランダムで役割を割り当て。

【取組のポイント】

女性が参加し、リーダーとなるための工夫

- ・ 隣近所で、「お助け5人組」を構成。5人の中からリーダーを必ず指名。
⇒約20名のリーダーが誕生。
リーダーの中からリーダー長を選び、リーダーに女性が入り、男女同数のリーダーとなることを目指している。
- ・ 防災教育として防災劇等を日常から実施することにより、男女共同参画の視点からの取組が組織内に浸透。



川向防災会による防災劇

取組の結果

市の自主防災組織連絡協議会においても女性の参画が加速化。
(45の自主防災組織が参加。事務局は市危機管理担当課)

- ・ 副会長に女性が選出。
- ・ 女性部会を設置：将来的に役員となる人材を育成するための勉強会を実施。